

### 第三者評価結果

事業所名：横浜市汲沢保育園

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>全体的な計画に、保育理念や方針などを記載している。園の特色として、異年齢保育、わらべ歌の会、環境教育などがあげられている。育児相談、貸出絵本などの地域の子育て支援など、保護者や社会に対しての内容が含まれている。全体的な計画には、発達段階を踏まえた保育内容を記載している。作成に当たっては、年度末に「課題実践プロジェクト」が中心となり、年齢ごとの保育の見直しを行い、次年度に向けての課題を抽出している。次年度の全体的な計画の目標として、子どもの発達についての計画を作成している。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育室は日当たりが良く、明るく清潔に保たれている。室内は夏は25℃、冬は22℃を目安に、毎日温度チェックを行い、クラスごとに日誌に記録している。また、CO2測定器により、窓の開閉をして換気している。園内掃除マニュアルがあり、それぞれの箇所、担当時間を決め、職員が清掃を行っている。子どもたちの帰った後の保育室は、特に念入りに消毒を隅々まで実施している。室内のおもちゃは、午睡時、午後4時頃、午後6時頃と、1日3回の消毒を行っている。砂場の掘り起こしは、土曜日に定期的に行っている。近隣に自然豊かな公園があり、四季折々の草花や木の実を集めて制作をしたり、虫を見つけて飼育をしたりしている。今年はアゲハチョウの幼虫を育てている。カブトムシ、カマキリなどの生き物を捕まえてきて観察したりしている。保育士は大人の声が騒音にならないよう、大声を出すことなく、子どもの声が聞こえるよう配慮して保育にあたっている。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>1歳児はすべての子どもが新入園児になるので、泣く子どもが多く、一人が泣き始めると連鎖して泣き出すことがあり、泣いている子どもをおんぶしたり、抱っこしたり、時にはテラスに行き落ち着かせたりと、できるだけ保育士が寄り添い、一人ひとりに関わって慣れていってもらっている。2歳になり、自分でやってみたい気持ちが出てくる子どもには、側で見守り、さりげなく手伝う支援を行っている。3歳になると、自分の持ち物の整理ができるようになるが、まだ苦手な子どもには、個別に関わりながら手伝いをしている。言葉があまりうまく伝えられない子どもには、子どもの気持ちが相手に伝わるような関わりを保育士が行っている。年長になると、共同で行事の準備をして、自信につながるよう支援している。職員は毎日のミーティングで、子どもの状態を共有し、どの保育士でも対応できるようにしている。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>食事は段階的にスプーン、お箸などで食べられるように指導している。年長クラスでは、時間や自分の食べる量などを自分で意識できるようにしている。また食育の計画の中、収穫した野菜で、焼き芋づくりやゆずジャムづくりなどを体験している。1、2歳児はトイレトレーニングを行い、パンツになってきている子どもも多い。おむつ交換は、トイレの中で衝立を使用して、プライバシーに配慮しながら行っている。睡眠は乳幼児突然死症候群(SIDS)対策として、1歳児は個別に10分おき、2歳児はクラスごとに10分おきに呼吸や寝方を確認して記録に残している。生活習慣を身につけるためや遊びに使用するため、保育士手作りの牛乳パックでのかわいい椅子、衝立などを活用しながら保育を行っている。基本的な手洗いの練習として、おままごとで使う手洗い場も、保育士手作りのものを使って遊んでいる。</p>	

【A5】 A-1-(2)-④  
子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。

b

<コメント>

クラスの中のおもちゃは、手の届くところに置き、自由に好きな時に出して遊ぶことができるようにしている。ブロック置き場にはブロックの写真が貼ってあり、遊び終わったら片付けができるようにしている。登園時の「今日はあたたかいから屋上で遊びたい」など、子どもの意見に耳を傾け、柔軟に関わり、子どもの自主性を優先した保育を行っている。今年の「おまつりウィーク」では、ドーナツ屋や魚釣り屋、的当て屋のお店を作ろうなど、子どもたちが自主的に話し合い、楽しんでいる。また、お楽しみ会では、散歩に行き捨てたどんぐりを飾り、華やかな会場にしている。園目標の「よく見て、よく聞いて、よく考える子」を育てるため、保育士自身が子どもの声をよく聴き、その声を実現できるよう支援している。

【A6】 A-1-(2)-⑤  
乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

<コメント>

0歳児の受け入れは行っていないため、「非該当」とする。

【A7】 A-1-(2)-⑥  
3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

1、2歳児は、安全に配慮しながら探索活動ができるよう見守りを行っている。園庭で死角になる場所には、必ず保育士を配置し、安全に配慮している。前期にはまだハイハイをしている子ども、やっとつかまり立ちができる子ども、歩いている子どもなどがいるため、ベビーフェンスなどを利用しながら危険のないよう配慮している。子どもたちに合った椅子や机を使用し、手作りのクッションや足台などを使用している。園内では、クラスに入るときは靴や靴下を脱いで、はだしで遊んでいる。家族との情報交換は、送迎時や毎日の連絡帳で、家庭や園での様子を情報交換している。年度後半になると、食事もスプーンを使い自分で食べられるようになり、おむつからパンツになりと成長が見られるが、個人差もあり、焦らずゆったりと信頼関係を持てるよう関わっている。

【A8】 A-1-(2)-⑦  
3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

基本的な生活習慣が身に付いてくる子どもが多く、3歳児は特に元気のいいクラスで活発である。安全に十分に配慮しながら、保育を行っている。4歳になると、仲間同士での遊びが増え、人との関わりや、人の気持ちが分かり合えるような関わりをしている。配慮の必要な子どもがいて、部屋を出て行ってしまっている子どもがいるが、無理して戻すことはせず、見守っている。カリキュラム会議やミーティングで、子どもの情報は全職員が把握しているので、誰もが対応できる体制をとっている。5歳になると、集団での取り組みを楽しく行うことが多くなり、今年は「エルマーとりゅう」の絵本をテーマに、お楽しみ会での劇や、おまつりごっこでのおみこし作りをクラス全員で行っている。また、当番活動や、ごみの分別(ワケルンジャー、ヘラスンジャー)、出席人数調べなどを責任をもって行っている。

【A9】 A-1-(2)-⑧  
障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

入園時に、保護者には統合保育を行っていることを説明している。カリキュラム会議や毎日のミーティングで、状態の情報共有、対応の共有を行っている。また、療育センターが巡回指導をしてくれるので、対応のアドバイスをもらったり、相談している。保護者からも、子育てについての相談がある。区の相談窓口や病院などの情報提供を行い、園での子どもの様子を伝えている。

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 早朝保育（7：00～7：30）5～6人、延長保育（18：30～19：00）2～3人が対象で、早朝は早番の保育士、延長保育は遅番の保育士が担当している。子どもの状態の引継ぎ体制は、「引継ぎ簿」に人数や子どもの状態などを書き、遅番の保育士は、迎えの保護者に、その日の状況を口頭で伝えている。18：30頃に、補食としておせんべいやゼリー、クッキーなどを提供している。1歳児で入園したての頃は朝早く登園すると昼前に眠くなってしまいうこともあるので、午前寝できるような環境を整えている。</p>	
<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 園内でははだしの保育を行っているが、小学校入学前になると、上履きを用意してもらい、上履きを履いての生活に慣れ、ハンカチをポケットに入れておいて使う練習など、小学校での生活に向け、体験練習をしている。また午睡も、1月ころには短くし、卒園近くなると午睡なしでの生活に慣れる練習をしている。立位での着替えの練習や、文字や数字に関心が持てるような保育を行い、鉛筆を持って書く練習なども実施している。子どもたちはうれしそうに鉛筆で書くことを楽しんでいる。卒園近くなると、近隣の小学校から校長先生が来て話をしてくれている。「保育所児童保育要録」は担任が作成し、主任やフリー保育士が確認して、園長の印をもらい小学校に提出している。</p>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt; 入園時に成育歴、既往症、予防接種などの状況を健康台帳に記入し、一人ひとりの健康状態を把握している。毎朝の視診では、鼻水は出ているか、顔色はどうかなど細かな観察を行い、引継ぎノートに記録している。毎朝、自宅で検温してもらい、健康状態を把握している。また変化が起こった時のために、子どもたち全員の平均体温の一覧表を作成している。その日の子どもの健康状態は、毎日のミーティングで保育士が共有している。体調の変化、けがなどがあつたときは、マニュアルの中のフローチャートの手順通り対応している。毎月の身長体重測定は健康カードに記入している。1、2歳児は連絡帳により、家庭との情報交換を行いながら、健康状態を把握している。乳幼児突然死症候群（SIDS）対策として、1歳児は10分おきに呼吸や寝方を確認して記録を残している。市の看護師が定期的に巡回に来て、子どもの状態を確認している。</p>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 年2回、嘱託医による健康診断を実施し、健康台帳に記載してファイルしている。また、結果を「健康の記録カード」に記載し、保護者に渡している。年2回、歯科検診も同様に実施し、結果を「歯科健康診査票」に記録し、保護者には歯科健康診査のお知らせとして渡している。治療が必要な子どもには、通院してもらっている。健診をきっかけに、自分の身体や歯のことに関心が持てるよう、お話や絵本で伝え、健康に過ごすために必要な生活習慣を身に付けるよう指導している。</p>	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt; アレルギー対応マニュアルがあり、全職員が共有している。小麦、卵、乳製品などのアレルギーのある子どもがおり、医師の指示書を提出してもらい対応している。月1回、次月の献立について、調理員、担任、園長、保護者で除去食面談を行い、除去する食材や形状などを確認している。除去食の提供は、トレイ、食器を他の子どものもので色を変えて区別し、ネームプレート載せて、専用のテーブルで間違わないよう工夫している。①前日はミーティングでの全職員の確認、②当日は担当保育士と調理員のダブルチェック、③クラス内で担任と他の保育士のダブルチェック、④配膳時の声出し確認を行い提供している。食事後も、床掃除が終わるまで他児と一緒にしない、万が一の場合の薬を預かるなど、細心の注意を払っている。エピペン（アナフィラキシーに対する緊急注射用キット）の使い方やアレルギーマニュアルについて、保育士や調理員は講習会に参加し、会議で全職員に伝達している。</p>	



A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>市の栄養士が、全市立保育園の代表と一緒に献立検討委員会を開催し、献立を立てている。その献立を基に、各園で調理をして提供している。食育担当保育士を置き、それぞれの年齢に合った食育計画を作成し、保育にあたっている。プランターや畑で、インゲンやナス、キュウリなどの野菜を栽培し、みそ汁に入れてもらったり、収穫したさつま芋を焼いて食べたり、ポップコーンを作って楽しんだりして、食への関心を深める保育を行っている。食の大切さを広めるため、地域の食育講座で保育士が話をしている。食事を楽しく食べられるよう、各クラスがランチョンマットを使用したりして、楽しい雰囲気作りを工夫している。1歳児は焦らず、ゆっくり食べられる量を、大きさなど工夫しながら提供している。年長クラスは卒園前に少人数で、園長と楽しい話をしながら食事し、食後は園長と楽しく遊んでいる。年長児は、テーブルを拭いたり、メニューを紹介したり、食前食後の挨拶を行うなど、当番活動を責任をもって行っている。</p>	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>食材は国産のものを使用し、地物の野菜を使用している。また旬のものを使い、季節を感じてもらっている。毎日のミーティングで、喫食状況や子どもの反応、器の大きさなどを話し合い、次の献立に反映している。献立は2週間サイクルになっており、1回目は食べにくかったメニューでも次の週はもっと食べられたなど、よい結果が出ている。行事食は、七夕には星をあしらったそうめん、クリスマスにはツリーをかたどった献立、時には横浜発祥のサンマーメンなど、工夫した献立を考えている。1歳児は刻み食など、入園当初は個別対応している。年長の当番の子どもは、エプロンと帽子を付け、衛生面に注意しながら行っている。園長または主任は検食をして、味など確認し日誌に記載して、次回の調理法に役立てている。定期的に栄養士の巡回指導がある。</p>	

## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>入園時に保育の意図、子どもの発達状況などの理解を促すため、入園のしおり、重要事項説明書、パワーポイントを使っての説明を行っている。現在はコロナ禍の関係で、保護者は園庭から保育室の入り口で受け渡しをしている。密を避け長時間滞在を避けるため、日々の子どもの様子や家庭の状況などの連絡事項は、連絡帳やクラスボードを使い、またクラスだよりを発行したり、写真を多く使った「ドキュメンテーション」を作成して保護者に伝えている。入園後の個人面談は年1回行い、保護者の心配ごとや要望などを聞いて相談に乗ったり、園からの情報を伝えている。投函しやすい場所に、意見箱を設置している。懇談会は、クラスごとに前期と後期の2回行っている。個人面談記録、懇談会記録はファイルしている。希望者には保育士体験を行い、保護者に保育士の体験をしてもらい、子どもの状況を見てもらっている。園だよりを月1回配布し、園の目標やクラスごとの写真などを載せ、保育の状況を理解してもらっている。</p>	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保護者の要望や不安、悩みなどを聞く機会を設けている。保護者から相談の希望があったり、園から保護者に相談したいことがある場合は、定期の個人面談以外に随時面談を行っている。相談内容により、担任と園長の複数で関わり、記録を残し、担任が変わっても継続的にフォローできるようにしている。またアレルギーが出たなど、専門的なアドバイスが必要な時には、受診をすすめている。保育士はカウンセリングや保護者支援研修に参加している。</p>	

【A19】 A-2-(2)-②  
家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。

a

<コメント>

「虐待防止マニュアル」の受け入れの際の観察ポイントを参考にして、子どもを受け入れている。虐待防止ハンドブックを備え、早期発見できるようにしている。毎日の保育の中では、着替えの際に子どもの全身状態を把握し、あざやけががないか確認している。気になる時には写真を撮り、記録に残している。子どもや保護者に、変化や気になることがあった場合は、担任から園長、主任に報告している。緊急度が高い場合は、児童相談所や区に連絡する体制がある。また区から見守りの必要な家庭について依頼があった時は、全保育士に周知して、丁寧に観察している。市の保健師との連携により、必要に応じて家庭訪問を行っている。

### A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

第三者評価結果

【A20】 A-3-(1)-①  
保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

a

<コメント>

乳・幼児会議などで、保育の振り返りや話し合いを定期的に行っている。市には「保育所の自己評価」「キャリアラダー」の様式があり、「保育所の自己評価」は、評価内容を保護者に公表している。保育士は「市人材育成ビジョン」を活用し、「目標共有シート」に個々の課題をあげ、園長と面談をしながら、年度末には人事考課結果を受け、次年度に活かし、さらに課題を決め研鑽に励んでいる。「保育所の自己評価」では、保護者からアンケートを取り、その後の保育に活かしている。「保育所の自己評価」はクラスに提示し、保護者に見てもらっている。